

2024 年度愛知県スポーツ推進審議会 会議録

1 日 時

2025 年 2 月 19 日（水）午前 10 時から正午まで

2 場 所

愛知県庁本庁舎 6 階 正庁

3 出席者

出席委員：來田享子（会長）、安藤佳代子、梅村郁仁、大竹正芳、杉山まゆみ
鈴木弘子、鈴木みどり、霊池恵量、照内由美、寺本明日香
中村竜彦、久田到、山田善申、吉岡初浩（14 名）

欠席委員：大槻洋也、熊澤雅樹、黒川修一、後藤泰之、松村亜矢子
（会長除き 50 音順、敬称略）

県 職 員：松井スポーツ局長始め 8 名

4 傍聴人等

5 名（傍聴人 2 名、記者 3 名）

5 議事の経過

（1）開 会

- ア 委員 19 名中 14 名が出席しており、定足数を満たすことを確認
- イ 挨拶（松井スポーツ局長）
- ウ 改選委員挨拶（杉山委員、鈴木(弘)委員、照内委員、寺本委員）
- エ 挨拶（來田会長）
- オ 会議録の署名人として、会長が大竹正芳委員及び杉山まゆみ委員を指名

（2）議 題

愛知県スポーツ局、アジア・アジアパラ競技大会推進局及び教育委員会事務局から、3 項目について報告がなされ、質疑応答を行った。

<報告事項>

ア 知事部局におけるスポーツ関連予算と主な取組について

- ・スポーツ振興課の主な取組
- ・競技・施設課の主な取組
- ・愛知国際アリーナ課の主な取組

【資料 1】2025 年度知事部局におけるスポーツ関連予算

【資料 2】スポーツ振興課の主な取組

【資料 3】競技・施設課の主な取組

【資料 4】愛知国際アリーナ課の主な取組

<質疑応答・要旨>

(安藤委員)

スポーツ振興費の国際スポーツ推進事業費の具体的な内容を教えてほしい。
また、施策の柱Ⅳの「アジア・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出」については、どういう事業を行っているか。

(企画調整課)

開催都市が両大会を行うにあたって必要な準備、例えば観客の輸送や警備、レガシー作りなどを盛り込んでいる。

「愛知県スポーツ推進計画 2023-2027 概要版」にある施策の柱Ⅳの取組についても国際スポーツ推進事業費に含まれており、ボランティアや広報、地域活性化、共生社会の実現に貢献することなどが入っている。

(来田会長)

資料の2から4までにスポーツ推進計画の何番に該当するかローマ数字で振っていただけて分かりやすい。そこにもう少し施策の柱Ⅳも入れた方がいい。例えば、パラスポーツ関係の推進は、最終的にはアジア・アジアパラ競技大会のレガシーになっていくものと思うので、もう少しできることがあるのではないかな。Ⅳを増やした方がいいのではないかな。

(企画調整課)

今後、そのような形で整理していく。

(来田会長)

多くのお金が使われるので、スポーツ推進計画と一体化していただきたい。今の関係だと、施策の柱Ⅱの「子どものスポーツ活動の充実」が付いた事業がない。これは抜けているのではないかな。

(競技・施設課)

施策の柱Ⅱの多くは児童・生徒に関するため、教育委員会の事業となり、後ほど説明させていただく。

(中村委員)

新規予算の「アスリートのキャリア形成を支援します」はとてもいい事業だと思うが、「本県出身のアスリート」とあるが、本県出身のアスリートしかマッチングできないのか。全国にがんばってきた選手がいて、それと愛知県内の企業とのマッチングがいいと思うが、どのようにお考えか。

(競技・施設課)

愛知県ゆかりの多くの選手が愛知県内におり、そういう方にまず今後も愛知県内で働きながら、又は、愛知県内で働けるとあって安心して競技を続けてほしいという思いがある。ただ、愛知県外の方を排除しているわけではなく、全国のアスリートの方々についても愛知県で活動したい方を排除するつもりはない。ぜひ愛知県でという方が1人でも増えればいいと思っている。

(杉山委員)

資料3、10ページの(5)であるが、2021年に体験させていただいた。スポーツ推進委員として岡崎市で活動しているが、岡崎市では障害者スポーツの推

進事業がなかったもので、これを機に岡崎市でも障害者スポーツの推進、共生社会の推進の内容の事業を進めたいと思い、翌年から3年間、座学・実技と実施してきた。その中で、様々な障害者スポーツを皆さんに体験していただいた。ボッチャなどは地元でもできる。最初は車いすのバスケットボール、地元の盲学校でゴールボールを行った。大会があっても1回で終わってしまうのは残念であり、様々な場所で、多くの方に体験していただきたいと思っているが、普段あまり利用しないスポーツ用の車いすやゴールボールのゴールは重く持ち運びも大変だが、そういったものがどこかでお借りできる施設があるのか。もしあるのであれば借りる方法とかを教えていただけると今後活動していけると思った。

(競技・施設課)

資料3、10ページの(7)にあるように、少しずつ貸し出せるものを準備している。ただ、ゴールボールのゴールはなかなか「どうぞ」というようにはいかない。アジアパラ競技大会において、ゴールボールは豊橋市、座位のバレーボールは岡崎市で実施する。大会で実際使う用具ではないかもしれないが、ゴールボールを体験する県の事業を豊橋で開催したので、そういった情報を出しながら持って行きにくいものは人が動くなど、様々な場所で競技ができる環境を徐々に整えていきたいと思っている。

(来田会長)

実際にどこに連絡すれば借りられるのか。

(競技・施設課)

愛知県スポーツ協会でも借りることができる。また、岡崎市内の特別支援学校にも置いてあるため、もう少し分かるようにPRさせていただく。

(杉山委員)

ゴールボールについては市内で借りることができるのか。車いすバスケットボール用の車いすはどこかで借りることができるのか。

(来田会長)

車いすバスケットボールは資料の中にはない。車いすは広い保管場所が必要となるため、中京大学でも体育館のかなりのスペースがある倉庫で保管しなければならない。スペースの確保、用具の購入、そして貸し出し時のチェック、これらが整わないとなかなか貸し出しを行うのが難しい。早めに用意できるものと、そうでないものがある。車いすは、子供たちにとって目新しい道具なので、イベント化しやすいが、その部分を調整していただいているところと推察する。

(競技・施設課)

我々も車いすを持っていなくて、中京大学や日本福祉大学に何かある度にお問い合わせに使わせていただいている。そういった大学とも極力連携させていただき、なかなか明日貸してくれとはいかないが、準備をし、こういう時にはこういうことをするので貸してくださいというような準備を進めていきたい。

(來田会長)

提案だが、この件はハードルが高いが、地域のニーズも多い。一方で、無尽蔵にお金や場所が出てくるわけではない。ニーズと実態が合いにくい事柄だと思っている。あいちスポーツイノベーションプロジェクトもあるので、例えばゴールボールのゴールの軽量化のようなことをチャレンジしていただいてはどうか。

(スポーツ振興課)

あいちスポーツイノベーションプロジェクトについては、事業の提案を受け、その提案を審査して事業を決定している。ゴールボールのゴールの軽量化のような提案があり、良い提案であれば採択することになるので事業が行われる可能性はある。

(來田会長)

では、この審議会で提案するのはどうか。そういうことは可能か。

(スポーツ振興課)

事業者がこういったことをやりたいと手を挙げてくる。募集する際に、県でゴールボールのゴールの軽量化のような提案を視野に入れ、PRした上で、そういった提案が事業者から出てくればできる。

(來田会長)

事業者がまずは動かないといけないのか。

(スポーツ振興課)

まずは事業者から提案をいただく。

(スポーツ監)

参考までに紹介すると、バレーボールの支柱は重いので、炭素繊維を扱っている会社が、炭素繊維を使い比較的軽いバレーボールの支柱を開発した。以前、そういったものを普及できないかと相談を受けたことがある。ゴールボールのゴールに需要があるかどうかはわからないが、企業は把握しているので情報交換ができたらと思う。

(來田会長)

ぜひ、企業とつないでいただきたい。こういうところで話題が出ると、各課の活動に「横ぐし」をどう通したらいいかのアイデアがでるので、大変貴重な意見である。

(安藤委員)

備品の貸し出しの件、東京オリパラの際に愛知県内の自治体でもかなりボッチャとか、パラ用具を購入したと聞いている。それらを調査すれば、岡崎市から一番近く借りられるところが見つかるようになる。かなり買ったようなので、使用できるとよい。

(來田会長)

こういうことが、スポーツ推進審議会委員だけでなく、もっと伝わるといい。

(競技・施設課)

東京オリパラで使った備品等については日本福祉大学に保管してもらった

ものもある。貸していただけるものであれば、そういった情報が広く伝えしていけるようにしたい。

(安藤委員)

東京大会で使用した備品だけでなく、東京に関連して全国の自治体で購入したということを聞いているので、愛知県内でもいくつかの自治体が備品を持っていると思うので、そのあたりの情報が集約できるといい。

(鈴木(弘)委員)

あいちトップアスリートアカデミーの選考は何かの競技で何か実績がある方を選考するのか。運動能力から選考するのか、選考基準を教えてください。また、この事業の広報をどのように行っているか教えてください。

(競技・施設課)

選定基準は、キッズ・ジュニアは選考後、様々な競技を経験して自分に合った競技を探してもらっており、体力測定で決めている。ユースとパラは競技を希望していただき、選定しており、競技団体に見ていただき、適性がありそうな競技があれば、種目転向してもらい、その競技を続けてもらっている。

PRについては、コンビニにポスターを貼ったり、一般的に目につくようにさせていただいている。また、学校でチラシを配布してもらっている。ただ、名古屋市は学校では配らない方針になっている。とはいえ、見てもらう必要があるので、保護者 LINE 等を使って名古屋市の小学生にも見ていただけるようにしている。どちらかというと、保護者から子供に「行きなさい」ということが多いため、保護者の目につくようなところでPRを行い、公募している。

(鈴木(弘)委員)

学校でのチラシは目につき、すごくいいと思っていたが、配らなくなった理由は何か聞いているか。

(競技・施設課)

教員の働き方改革等があると思う。保護者向けの冊子もあるので、そういったところに載せていただいている。

(來田会長)

愛知県スポーツ推進審議会から「強く名古屋市に協力をお願いしたい」とお伝えください。

(鈴木(み)委員)

総合型地域スポーツクラブについて、経営、例えば予算はどのように使われているのか。また、アシスタントマネージャーを養成するなどの反応はどのようなかお聞きしたい。

(競技・施設課)

我々は、クラブアドバイザーなど、少しずつ育成している。54市町村のうち、クラブがないのは2市町、蒲郡市と南知多町となっている。蒲郡市は準備をしている。南知多町はクラブがなくても学校単位でやっており、地域で運動するところではできていると思われる。しっかり活動しているクラブとあまり活動していないクラブもあり、そういったところをアドバイザーが回り、会議を行う

ことでより積極的に、部活の話もあるので、一人でも多くの方に来ていただけるよう受け入れてくださいと話をしている。ちょっとずつ、年に1個か2個だが、クラブが増えているイメージである。

(来田会長)

クラブについてはかなり違いがあるので、モデル的な事例を出していただいた方が議論になると思う。その辺については後日相談させていただきたい。

イ 第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の取組について

【資料5】第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の取組について

<質疑応答・要旨>

(来田会長)

大きな大会であるため、相当な苦勞をされているかと思うが、もう少し地域の方に情報が伝わり、大会が盛り上がるといい。

(寺本委員)

アスリート委員会、また競技のアスリートの意見も踏まえて情報を共有したいと思う。まず、ボランティアの募集について、まだ集まっていない状況が進んでいるかと思うが、JOCのアスリートフォーラムに参加した時にたくさんのアスリートから意見があった。その中にボランティアをやるメリット、ポスターには公式ユニフォームがもらえると書いてあったが、学生や一般の方からすると、ほかにどんなメリットがあるのかももう少し知りたいという意見があった。ポスターの中にボランティアをやった先にどんなメリットがあるか、交流が深まるなど、いろいろなメリットがあると思うが、ボランティアをやるにあたって、大会が終わった後にどんなことが待っているかが見えると良い。

また、組織委員会側の問題になるかもしれないが、専門のボランティアがあり、承認コードをもらって、例えば体操だと体操のコードをもらってボランティアに参加申し込みをするシステムになっているが、他県からボランティアに参加したいと思っている人から、組織委員会に問い合わせてもなかなか返事が来ないからどうしたらよいか分からず、ボランティアに参加したいのにうずうずしている状態だという意見をいただいた。問い合わせ1つ1つ、丁寧に返信したりするなど、1人1人を大切にされた方が良かったと思った。

ボランティアの募集をJOCのアスリートフォーラムでバレーボールの荒木さんとフィギュアスケートの小塚さんが代表して募集をかけていたが、その際に目的というか、大会が10年くらい前から2026年に開催されることを周知していたと思うが、なぜ、愛知・名古屋で行うか、そういった目的がアスリート委員会でもそうだが、組織委員会でも共有されていない。もっと強く目的の見える化を行わなければ、目的が人々に届かないし分からない。ボランティアを募集する際も、とりあえず「やってください」、「ボランティアを募集しているからやってください」としか言えない。なぜ、愛知・名古屋でやるのか、様々

な方と共有した方がよい。そういった意見があったので共有する。あと、街中のラッピング、これからやっていくと思うが、佐賀の国民スポーツ大会や、杭州のアジア競技大会に行った際に、例えば看板だったり、タクシーやバス、高速道路だったり、ラッピングが至るところにあり、街中が盛り上がっているなと感じるので、街中の色合いをアジア・アジアパラ競技大会に染めてほしいなと思う。

(企画調整課)

ボランティアはアジア競技大会、アジアパラ競技大会合わせて4万人の目標を定めて募集しているところ。ボランティアに参加することのメリットについては、例えば、組織委員会からの公式ウェアを着て、帽子をかぶって、大会と一緒に運営するといった一体感や、杭州大会でも感じたが、ボランティアをやって、そこでの仲間づくり、人づくりがあって、大会が終わった時に皆さんが感動していたということもある。アジア競技大会に限らず、様々なボランティアがあり、例えば、来月の名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2025でも同じ体験ができる。昨年秋に行った2年前イベントでもボランティアを体験した方に「こういったいいことがありました」と発信していただいたが、そういった声をきちんと発信していくことを組織委員会と連携ができればと思っている。

2点目の専門の競技の承認コードについては組織委員会にそういったご質問があったということをお伝えしたい。

3点目のなぜ愛知・名古屋でアジア・アジアパラ競技大会を開催するのかという質問だが、私ども職員もそうだが、アジア・アジアパラ競技大会をどうやって準備を進めていくのかということと同時にこの大会でどうしたいのかということが大事だと思っている。アジア・アジアパラ競技大会は、スポーツを通じた「人づくり」である。様々な社会課題がある中で、特にアジアパラ競技大会は、多様性を重んじるような時代になる中で、共生社会をどうやって実現していくかといったところも非常に重要である。そういったところも、愛知・名古屋で大会を開催することで、行動変容をおこしていきたいというところが一番大きなところだと思う。大会開催を一過性のものとせず、大会をやることで愛知県民が変わっていく、そういうところまでを含めて、この大会を開催する意味があると思っている。

最後にシティードレッシングだが、昨年の杭州大会で街並みを視察させていただいた。ジャカルタ大会も街並みがデコレーションされ、機運を上げることは非常に大事なかなと思っている。こういったところについても開催都市として必要なところは承知しているので、来年度・再来年度にかけて機運を盛り上げられるラッピングや装飾を進めていきたい。

(杉山委員)

ボランティアの募集について、私もボランティアに登録した。組織委員会の方が説明にお越しいただき、積極的にということでも意思を表明した。その中で、条件なのか分からないが、5日から8日携われる方ということで、皆さんがま

だ現役なので調整がつきにくく、諦めた方が多くいた。そういったところで、職場の方へ組織委員会から話ができるのであれば参加しやすくなると思う。やる気がある人がやれないという現状がある。そのあたりはいかがか。

(企画調整課)

当初の募集要項では、日数に縛りがあり、参加しにくいという意見もあった。そのため、1日から参加できると条件を緩和している。アジア競技大会は2026年9月19日から16日間開催されるが、最初の5日間はシルバーウィークになっており5連休になる。ここが一つポイントであり、そういったところに手を挙げていただければと思う。

(来田会長)

多様性や共生社会など言われているので、多様な働き方等に合わせられるようなボランティアにしていだけたら、そういったことをうまく論点を整理しながら進めていただきたい。

(安藤委員)

前回も意見したが、アジア・アジアパラ競技大会の教育プログラムについては実施されない。それがフレンドシップ事業になっていると理解した。内容を見ると、各県内の教育委員会に一任されているイメージだが、過去の国際大会、アジア競技大会は広島県でも開催されたが、教育の視点で子供たちの行動変容が非常に大きいので、是非、愛知県でも実施していただきたいと思う。

(企画調整課)

学校でアジア・アジアパラ競技大会のことを話していくことは非常に大事な視点であり、大きくくりではフレンドシップ事業としているが、各学校にアジアの文化や国々を知ってもらうような時間を設けてやっていこうと来年度、再来年度に行う予定であり、最終的に大会を観戦してもらうとか、応援してもらう、そういうことにつなげたいと思っている。

寺本委員もアスリート委員になっているが、組織委員会と一緒にあって、アスリート委員会で学校訪問を行っている。競技体験もあるが、アジア・アジアパラ競技大会の素晴らしさ、観戦のポイントなど、様々な視点で学校訪問し、関心を深めていただくという取組を行っている。引き続きアスリート委員会の皆さんにもご協力をいただきながら理解を深めていきたい。

(来田会長)

愛知県スポーツ推進審議会の会長として組織委員会の理事会に参加させていただいているので、まだまだ意見が出るようでしたら私からも理事会にお伝えしていきたい。

ウ 教育委員会におけるスポーツ関連予算と主な取組について

【資料6】2025年度教育委員会におけるスポーツ関連予算

【資料7】2024年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果

【資料8】部活動の地域移行に向けた取組

<質疑応答・要旨>

(吉岡委員)

地域移行が非常に悩ましいところで、実態として春日井市でも希望する教員が兼業届を出す比率が高いのではないかと思います。豊田市は企業がしっかりあるが、小さい町だと大きい企業があるわけでもないの、実態としては難しいところがあるが、教員が受け手になっている地域移行のスポーツクラブは愛知県の場合はどうなっているか。

(保健体育課)

各市町村がアンケート等を実施しているが、教員で部活動の兼職兼業で関わりたいと言っているのが3割程度。実態としては、教員の兼職兼業や部活動として教員の力を借りて部活動をやっているところが多いが、国も兼職兼業の仕組みを検討すると言っている。外部指導者に比べ教員の方が生徒をよく分かっており、保護者も教員が関わる方が安心ということはある。ただ、教員の働き方改革もあるので、バランスをしっかりとって進めていきたい。

(吉岡委員)

30%くらいの方が実際に携わってみえるということか。

(保健体育課)

地域移行後も「携わってもいい」と考えている方の数。

(吉岡委員)

今、発言があったように、教員としても子供を指導していきたいという思いもあるし、保護者も安心ということもある。一方で、働き方改革でこの話が出ているのに、逆行しているというのものもある。実態はどうか。

(保健体育課)

全県では、調査をしていないが、報告をいただいている市町では、感覚としては3割程度の教員が手を挙げてくださるのではないかと考えている。逆に、7割の教員はできれば土日は休みたいと思っているのが実情である。

(来田会長)

体力問題だが、今回平均値で出していただいたが、平均の問題ではなくなっていると感じている。ものすごい2極化の中で事態が進んでいて、平均に意味はなく、下の方にいる子供たちがどうなのかということに対して政策を打って行かなければいけないと感じている。

(保健体育課)

県教育委員会としては、中京大学にデータ分析をお願いしており、細かいデータを持っている。実際に点数を見ると、1点の違いで順位が大きく変わる。この1点にどのくらいの重みがあるかと思われる方も多いと思う。何万人も受けたなかでの1点であり、統計的に見ても有意な差がある。そして、得点の分布をみると、正規分布の山ができるが、愛知県は低い方に山がずれている。中央値も低い方にずれている。体力が高くない子供たちも、体育の授業で楽しく、体を動かせる授業を働きかけている。

(來田会長)

おそらく中央値は全然あてにならない。学校の中で、子供が楽しいと感じる楽しみ方が運動の質として違ってくると思う。例えばスペシャルオリンピックスであれば、ディビジョニングということでやっているが、思いっきりやりたい子供たちの内容と楽しいと感じたい子供たちの内容とが同じ授業の中で同時に展開されている状況。今までの体育はみんなが同じことを同じようにやって楽しいとなっていたが、そういう状況ではなくなってきたという目で少し教育委員会も動いて行った方がいいかなと思う。

(大竹委員)

新聞報道にもあったが、愛知県にゆかりのある選手が安心して競技生活を継続していただくために、愛知県と協力して昨年秋に調査を行った。どのくらい回答があるか心配していたが、意外と回答が多く、6,000社に対して600の回答があり、そのうち、「何らかの支援をさせていただきたい」、あるいは、「マッチングを希望する」と回答した企業が多かった。商工会議所としても、アスリートのキャリア形成支援が重要だと思っており、今回新規で事業をあげていただいたのは大変ありがたく、心強い。今後は、実際に取組や起業する中でどんな成果が出てくるのか、手ごたえというか、企業がこんな風に思っている。アスリートがこんな風に感じているなど共有していただきながら改善につなげてほしい。初めての調査だったが、非常に良かったと感じているので、愛知県と共有しながら進めたい。

＜その他＞

(來田会長)

本会はスポーツ推進計画の進捗については説明いただかなかったが、今進んでいる2023年からの計画が2年間経った。実際に成果指標がどうかということは数値で表せない部分も結構あると思うが、次回の事業計画をご説明いただく際に実態としてこういうところはいいなと進んでいるが、正直手ごたえとしてここは難しいと感じているところを教えてくださいとありがたい。次のスポーツ推進計画につなげられる。役に立つと思うのでお願いしたい。

(3) 閉 会

＜事務連絡＞

愛知県スポーツ推進計画の進捗状況については、本年7月頃までに、今年度の実績を確認し、審議会委員に報告する。

以上